

すいそう

ガザの想いを届けた。ガザのデザイナー、ロザンとは2017年に出会った。彼女の才能に魅了され、2019年に彼女のデザインを用いたGAZA Tシャツを日本で販売した。



そのロザンは今、エジプトに居る。この紛争がはなかつた。それでもど

スイカを目指して飛ぶ鳥

北村記世実(パレスチナ・アマル代表)

うせ死ぬなら仕事をしたい」という間に死にたい」というスタップたちのために、発注されていないものを仕事と偽ってデザインさせていたという。私はそう聞いて、せめて本物の仕事をさせてあげたいと思い、ロザンとの協同ブランドPupa(さなぎ)Gazaを立ち上げた。売り上げの一部をロザンに送る寄付付きのシャツやバッグを作っている。今回のテーマは「GAZA」。

Pupaホームページ <https://pupa-gaza.com/ja/>

インタビュー

困難を抱える若い女性を支援する「Colabo」代表の仁藤夢乃さんが、『バカなフリして生きるのやめた』を出版しました。仁藤さんに、本に込めた思いを聞きました。

10代の頃、私は夜の街を徘徊し、性加害を目的に近づくと対して、何も知らないフリ、男の人に媚びることで生き延びてきました。本のタイトルは、そんな私も含め女性たちがバカなフリをして生きるのをやめ、自分の人生を自分でつくっていくという宣言です。コロナ禍で働けなくなり、路上に立つ女性は明らかに増えました。そしてコロナに対する支援を東京都が打ち切ったために、今、男性の買春者はコロナ前の3倍です。

嫌だと思いつく言葉を言葉に



一般社団法人「Colabo(コロボ)」代表 仁藤夢乃さん

私たちはまず「つくった笑顔はなくていいよ」と伝えて、彼女たちはそこで初めて、相手が求める振る舞いをしなくていいことに気づく。それから、JK(女子高生)ビジネスや貧困や虐待の構造などいろんなことを話すなかで、自分がなぜかわいくないと駄目だと思わされてきたのか、力のないものとして扱われた



『10代から考える性差別的・性暴力なフリして生きるのやめた』新日本出版社 1600円+税

だから私たちは黙っていちゃいけない。自分が嫌だと思つたことを言葉にする。性加害がなぜ起きるのか、男社会の構造が何なのか見極める。それを積み重ねることで、女性の人権が尊重される社会の実現に向けて、声を上げ続けてほしい。

BOOK

編集部から

つぎやぎがみるみる間に広がり、全都道府県150カ所以上でのアクションへ。ママとハイハイに「NO」と声を上げる姿を見せてほしい。(り)



一つ一つの庭を共有し囲むように建っている4軒の家には、4姉妹がそれぞれ住んでいた。戦後の混乱、父の失踪と巨額の借金、恋に仕事、結婚、老い。人生の転機と生きざま。会の変遷と生きざま。気持ちが高ぶれる時に出る仙言言葉や笑い声が心に残る。自分の祖母や母に話を聞いてみたくなる。



なぜ母国を離れざるを得ない人たちがいるのか、歴史や国際条約、難民キャンプの実情、日本の課題など、10代向けに丁寧に書かれた難民問題の入門書。日本にいないが、明日からできることも知れる。大人にもおすすめ。

笑う四姉妹

ひとつの庭と四つのおうち

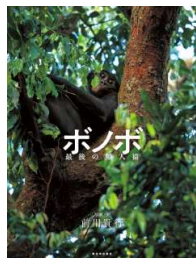
金子ユミ

自分ゴトとして考える難民問題

SDGs時代の向き合い方

日下部尚徳

代田知子さんおすすめの子どもの本 大人もぜひ!



ボノボ 最後の類人猿
前川貴行 写真・文
(小学校中学年～)



閉じこめられた「森の人」
ミッシェル・カタルスマン 作
村上利佳 訳
(中学生～)



きみはなんのつる?
いろいろな つるしょくぶつ
のそだつにわ
大野八生 作・絵
(幼児～)

まずは、『ボノボ 最後の類人猿』から。アフリカ・コンゴ盆地の熱帯雨林だけにすむ、謎の生き物ボノボを、日本で初めて紹介する写真絵本だ。凛としたまなざしを向ける樹上のボノボ、授乳中のボノボの母子…。素晴らしい写真ばかりだ。彼らはヒトと同じ。心があり、平和な暮らしを望んでいる。なのに、ヒトが起こす内戦や密猟や森林伐採でその生息数は激減している。これでいいのか?と考えるにはいられない。

2冊目は『閉じこめられた「森の人」』。インドネシアの町のレストランで違法に飼育されるオランウータンを、少年と少女が救おうとする物語だ。母親が射殺されたオランウータンの赤ん坊を、かわいそうだからと引き取った店

主は、大きくなりすぎたために檻に入れ、閉じ込めたまま飼っていた。檻の掃除係の店主の甥っ子、裕福な家庭に育ち環境保護活動にとりくむ少女、そして監禁されたオランウータン。三者の視点で物語が語られる。ハラハラしながら一気に読める。巻末のオランウータンの現状や保護についての情報も役に立つ。

最後はのびやかな絵が美しい絵本『きみはなんのつる?』。つる植物といえば、アサガオが思い浮かぶが、ここには、スイートピー、ノウゼンカズラ、ツルコケモモなど数々のつる植物が登場。みんな自分のやり方で、いろいろな物に巻きついて大きくなっていく。植物はたくましい。こんなに違うの?と驚かされる。ぜひ親子で!